〒 169-0075
東京都新宿区高田馬場
3-13-1-B1
TEL: 03-3363-7561
FAX: 03-3363-7562
http://www.peaceboat.org

2024 年 7 月 26 日

ピースボート Voyage117「ヒバクシャ地球一周　証言の航海」
～世代と国境を越えて～
プロジェクトの概要とその成果

●クルーズ　　ピースボート・地球一周の船旅　Voyage 117
●テーマ　　「世代と国境を越えて」
●期間　　2024年4月13日（土）～2024年7月26日（金）　横浜発着　計105日間
●寄港地数　18 か国　21寄港地
●使用客船　パシフィックワールド号
●主催団体　ピースボート
●参加被爆者　　3名
　田中熙巳（長崎被爆／横浜からケープタウン）
　田中稔子（広島被爆）
　小川忠義（長崎被爆）
●参加ユース　2名
　ロンユエン・フアン（中国出身）
　ジョエル・直樹・クリストフ（日本／フランス出身）
●証言活動　12 か国 12 都市にて実施
●後援
　広島市　／　長崎市　／　平和首長会議　／　日本原水爆被害者団体協議会
　公益財団法人広島平和文化センター　／　公益財団法人長崎平和推進協会

●主な活動と成果
①広島・長崎の原爆や世界各地の核実験が人間に何をもたらしてきたのか被害の実相を伝え、発効された核兵器禁止条約とともに、核廃絶に対する活動の機運を高めた。（ポートビクトリア、ル・アーブル、カルタヘナ、プンタレナス）

②世代と国境を越えた多くの人々とともに、核兵器をなくすための具体的な歩みや継承について考えた。（ケープタウン、ティルベリー、ニューヨーク、バンクーバー）

■参加被爆者

写真：ANT-Hiroshima

田中 稔子（たなか としこ）
広島被爆 1938年10月18日生まれ 被爆当時6歳
広島県広島市在住

国民学校に登校中2．3km地点で被爆。思わず顔を右腕で覆ったため、頭、右腕、首の左後ろ側を火傷した。その日の夜から高熱を出し、意識不明となるが、一命をとりとめた。米国ニューヨークの高校生に証言をするプロジェクト「ヒバクシャ・ストーリーズ」に招かれるなど、7年間で10回以上渡米し、アメリカのさまざまな人に被爆証言をしてきた。2020年9月21日、国際平和デーにあわせて、アメリカ国内5か所の枯山水庭園で、デザインした図案に基づき、砂紋引きが行われた。

小川 忠義（おがわ ただよし）
長崎被爆 1944年3月22生まれ 被爆当時1歳
長崎県長崎市在住

原爆投下当日は疎開していたが、1週間後自宅の状況確認のため入市し、被爆。自身の被爆当時の記憶はないが、被爆者の最後世代として証言を継承していけるようにと過去のおりづるプロジェクト（2012 年第 5 回）に参加。また、現在は自身の趣味である写真を生かし、毎年8月9日11時2分の様子を写真に収める活動（忘れないプロジェクト）を行っている。これまでに県外や国外からも 200 枚を超える写真が集まり、被爆 100 年には 1000 枚を超えることを目指して精力的に活動している。

■ユース特使

Rongyuan Huang （ロンユアン・フアン）

中国出身、米国在住。日本への留学経験あり。
広島、パールハーバーを訪れ、戦争や原爆投下、歴史認識などに関して、自国を含めたそれぞれの価値観があることを実感。
アジア諸国からの多様な乗船者と被爆者の言語的、文化的な橋渡しのサポートをしながら、お互いを尊重しながら意見の違いを認める大切さを伝えたいと参加を決意。

Joel Naoki Christoph （ジョエル・直樹・クリストフ）

フランスと日本の両親の間に生まれ、ヨーロッパ、アジア、北アメリカで暮らす。原爆被害者、ホロコースト、戦争、そしてジェノサイドの生存者の話を聞いたことから、国際的な平和と相互理解を推進し、他者の苦しみを軽減することに尽力することを決意。G7 ユースサミット、広島-ICAN アカデミーにも参加し、精力的に被爆証言や核兵器について学びディスカッションを重ねる。
また大学では、核やデジタル問題、国際公法について専門的に学び博士号を取得し、高等教育の学生が研究テーマを見つける手助けをする非営利団体のディレクターも務める。
フランス語、英語、日本語、オランダ語、ドイツ語、スペイン語と多言語を使いこなす。今回被爆者とともにクルーズに乗船し、国境や世代を超えたディスカッションができる橋渡しを目指す。

■プロジェクト水先案内人

田中熙巳（たなか てるみ） 横浜～ケープタウン
日本被団協代表委員、埼玉県原爆被害者協議会会長

1932 年 4 月 29 日　中国東北部（旧満州）生まれ。東京理科大学物理学科卒業。工学博士。1938 年父の死亡により、父母の姉たちがいた長崎に移住。1945 年 8 月 9 日、県立長崎中学校 1 年在学時、爆心地から 3.2 キロの地点で原爆被爆。爆心地付近にいた二人の伯母の家族 5 人の命を一挙に奪われ、母方の伯母を野原で荼毘に付す。1972 年から、被爆者運動に関わり、宮城県原爆被害者の会や日本被団協の役員を歴任。2000 年 6 月より、日本被団協事務局長を務める。2017 年 6 月より日本被団協代表委員。

Mary Dickson（メアリー・ディクソン） ニューヨーク～マンサニージョ
脚本家、風下住民

作家・脚本家・ユタ州ソルトレイクシティ出身の風下住民、甲状腺がんサバイバー。核実験被害者への援助を国際的に訴える活動家。日米の学会やフォーラムで核兵器の人間への影響について幅広く執筆や講演活動を行う。過去4年間、風下住民やウラン鉱山で働く労働者、また米国各地の支援団体と共に、核実験と核兵器製造による被害者への補償を拡大するよう米国議会での法案制定のために尽力してきた。ドキュメンタリー映画でのインタビュー多数。戯曲『Exposed』は批評家から絶賛され、全米各地のステージ上での朗読作品として上演されてきた。2012 年、核実験被害者たちのために行った長年の功績が認められ Alliance for Nuclear Accountability（核のアカウンタビリティーための連合）から栄誉を称えられた。

● 寄港地での活動

4月18日　深圳（中国）

活動都市：深圳

発言者：　田中熙巳さん、ロンユエン・ファンさん、吉岡達也さん、渡辺里香さん（船内証言会/約 20 名）

ピースボートが国際運営団体を務める「武力紛争防止のためのグローバルパートナーシップ（GPPAC）」で繋がりのある「チャハル・インスティテュート（察哈尔学会）」のメンバーを船内へ招き、「日中平和のための市民対話イベント」を実施した。同インスティチュート主席研究員の邱国洪大使からは、時間をかけて互いを理解し両国間の友好関係を築くことの大切さが語られた。中国出身のユース、ファンさんは語り続けてきた被爆者の勇気を讃え、核兵器が使用されれば世界に終止符が打たれることを伝えたいと発言した。

4月22日　シンガポール（シンガポール）

活動都市：シンガポール

国立歴史博物館で、多民族国家シンガポールの成り立ちや、その後のイギリスによる植民地時代、第二次世界大戦中の日本軍による占領や加害の歴史を学んだ。その後、日本軍により虐殺された人を追悼する「血債の塔」（正式名称：日本占領時期死難人民記念碑）も訪れた。田中熙巳さんは「イギリスの支配からシンガポールを解放させるための戦いだと教えられてきたので、日本の侵略の歴史を知るのは複雑だが、原爆被害を伝えるには同時に、日本が何をしてきたのかを知り伝えていくことも必要」と発言した。

5月1日　ポートビクトリア（セイシェル）

活動都市：ポートビクトリア

発言者：田中稔子さん、ジョエル・直樹・クリストフさん、渡辺里香さん（大統領府との面会）

ワベル・ジョン・チャールズ・ラムカラワン大統領と大統領夫人を表敬訪問した。田中稔子さんによる英語での被爆証言に続き、ユースのクリストフさんからは率先して非核化を目指すセイシェルへの敬意と感謝を述べた。大統領は真剣に証言に耳を傾け、「当時の生存者から直接話を聞くことはとても意味がある。改めて核兵器のない、美しい空と海を未来の子どもたちに渡したい」と語った。

5月11日　ケープタウン（南アフリカ）

活動都市：ケープタウン
発言者：　田中熙巳さん、田中稔子さん、小川忠義さん、ジョエル・直樹・クリストフさん、渡辺里香さん（バーサー・ハウスにて意見交換会／約 10 名）
アフリカとグローバルサウスの発展と平和構築のために、科学や教育などさまざまな面から AI を研究している「Equiano Institute（エクイアノ研究所）」メンバーと意見交換会を実施。「アパルトヘイトを経験した南アフリカの人だからこそ伝えられることは何か」と問われた田中稔子さんは、「戦争は何もしなくても発生するが平和は訴え創り続けなければなくなってしまう」と答え、共感が生まれた。ガザでの惨状に関する問いかけに対しては、小川さんから「悲観せず必ず戦争は終わり復興できると願っている」とエールを送った。

5月25日　ラスパルマス（スペイン）

活動都市：ラスパルマス
発言者：　小川忠義さん、ロンユエン・ファンさん（市庁舎にて証言会／約 80 名）
スペインが NATO に加盟する際に、非武装の理念に共感して建てられた「9 条の碑」とそれがあるヒロシマナガサキ広場を訪問した。テルデ市議のフアン・マルテルさんと観光局のマラ・ヴェガさんに引率されて市庁舎に移動し、60 名の地元ユースチームに向けて証言会をおこなった。おりづるメンバーに「兄弟・仲間の証」を表す緑色のスカーフが送られ、ユースチームからは「話していただいた(被爆)体験が二度と繰り返されないように、今後一緒に考え平和をつくっていきましょう」と心強いメッセージをもらった。

5月31日　ル・アーブル（フランス）

活動都市：ル・アーブル市、ゴンフレヴィル・ロールシェ市
発言者：　田中稔子さん、小川忠義さん、ジョエル・直樹・クリストフさん（中学生への証言会、副市長との面会／約 100 名）
核兵器反対を訴え、平和の価値観を伝える教育に力を入れているゴンフレヴィル・ロールシェ市のアルバン・ブルーノ市長に迎えられ、中学生・市議・ICAN を始めとする市民団体メンバーに向けて証言会を実施。学生からは率直な質問や意見が相次いだ。その後、ル・アーブル市外交担当兼副市長のカロライン・レクラークさんとも面会し、核に関する政策の意見交換を行った。ICAN フランスのジャンマリ・コリンさんからは、核兵器禁止条約に賛同するシティー・アピールへの署名を促した。

6月2日　ティルベリー（イギリス）

活動都市：ロンドン
発言者：　田中稔子さん、小川忠義さん、ロンユエン・ファンさん（証言会、EA 会議にて証言／約 500 名）
核軍縮キャンペーン（CDN）、英国のクエーカー教徒、英国国連協会、平和首長会議、核実験被害者団体、パックス・クリスティ、核情報サービス、WILPF（婦人国際平和自由連盟）、地球規模の問題を研究する科学者の会など多くの団体の共催イベントにて市民へ向けた証言会と交流会を実施。俳優のマイケル・ミアーズ

さんによる一人芝居「原爆当日を体験した神父の話」を鑑賞。午後からは核兵器廃絶に向けて効果的な方法を研究するEffective Altruism（効果的利他主義）コミュニティが主催するEA会議に参加した。

6月9日　レイキャビク（アイスランド）

活動都市：レイキャビク（ホフディ・ハウス訪問）

レイキャビク市議のステファン・パルソンさんとレイキャビク市長室のアンナ・クリスティンスドティルさんに迎えられ、過去に米国とソ連との会談が行われ、「すべての核兵器を禁止する」との提案まで至った歴史的な建物、ホフディハウスを訪問。ウクライナ・ユース・アンバサダーと一緒に見学したこともあり、核兵器廃絶や現在も続く戦争終結に向けての思いを新たにした。

6月16日、17日　ニューヨーク（米国）

活動都市：ニューヨーク

発言者：　田中稔子さん、小川忠義さん、メアリー・ディクソンさん、渡辺里香さん（UNプラザでイベント／約50名）

一日目は、マンハッタン計画などの原爆開発の関連現場を訪れ、核兵器の開発・使用・禁止に関わるニューヨーク市の取り組みを学ぶウォーキングツアーを実施した。ニューヨーク市の公立学校に被爆者の講演を行うなどの軍縮教育をしてきたヒバクシャ・ストーリーズのキャスリン・サリバンさんを中心に、多くの現地パートナーの活動を学んだ。

二日目は、国連軍縮局の#Youth4Disarmamentプロジェクトとの協力で「未来の世代のために平和な明日を築く」を開催。グローバルヒバクシャ（米国とマーシャル諸島の核被害者）とともに証言会を実施した。広島で

被爆しカナダ在住のサーロー・節子さんの半生を描いた映画「ヒロシマへの誓い」を上映。上映前には、監督・プロデューサーの竹内道さんとスーザン・ストリクックラーさんによるスピーチも行った。

6月23日　カルタヘナ（コロンビア）

活動都市：カルタヘナ
発言者：　田中稔子さん、小川忠義さん、ロンユエン・ファンさん（証言会、外務省担当者への訴え／約 20 名）
CCCM（コロンビア地雷廃絶キャンペーン）主催のイベントにて地元市民へ向けた証言会を開催。平和教育の大切さを再認識したという教師や、小川さんと孫の長門百音さんが行っている「忘れないプロジェクト」への協力を約束するものなど、多くの意見が寄せられた。証言会後には、外務省軍縮担当者と核兵器禁止条約に関する意見交換会をオンラインで行った。被爆者から直接、核兵器禁止条約への理解、署名への感謝を述べ、次のステップである批准を求めた。

6月27日　プンタレナス（コスタリカ）

活動都市：プンタレナス
発言者：　畠山澄子さん、田中稔子さん、小川忠義さん、メアリー・ディクソン、ジョエル・直樹・クリストフさん（国立大学での証言会、外務副大臣との面会／約 60 名）
「軍隊を持たない国」であるコスタリカの外務副大臣も参加し、国連平和大学と国立大学 UNED の共催イベントにて証言を行った。ウクライナ・ユース・アンバサダーと米国の核被害者メアリー・ディクソンさんも発言し、外務副大臣、駐日コスタリカ大使、NGO 団体関係者や学生と共に、今後の世界の平和構築に関する考えを共有する機会となった。

7月8日　バンクーバー（カナダ）

活動都市：バンクーバー
発言者：　田中稔子さん、小川忠義さん、ジョエル・直樹・クリストフさん、ロンユエン・ファンさん（サイモン・フレーザー大学にて証言会／約 60 名）
カナダを代表する人道的軍縮団体 Mines Action Canada （MAC）主催で、サイモン・フレーザー大学にて証言会と交流会を実施。大学生とNGO 関係者、在バンクーバー日本国領事館の方やカナダ・アジア太平洋財団の方が参加した。終了後に中国出身の来場者から「体験した方の目線ではじめて原爆の話を聞いた。新しい気づきが多くあったので、友好な市民関係が友好な国交につながることを願う」という意見をもらい、被爆者は勇気づけられた。

【その他の寄港地】
ポートクラン（マレーシア）、ポートエリザベス（南アフリカ）、ウォルビスベイ（ナミビア）、リスボン（ポルトガル）、ベルゲン（ノルウェー）、クリストバス（パナマ）、マンサニージョ（メキシコ）、ケチカン/スワード（米国アラスカ州）

●船内での活動
≪主な交流相手≫

■　ウクライナ・ユース・アンバサダー
日本に暮らすウクライナ出身の若者が 7 名乗船し、船内の乗客に向けてウクライナの現状を世界に伝え、将来の平和や復興のためにできることを訴えた。寄港地では、各国のウクライナ大使館代表や政治研究団体などと面会し、ウクライナの現状、国外避難民としての不安や窮状を共有した。レイキャビク、プンタレナスでおりづるプロジェクトと共に寄港地プログラムを行った。

■　河合弘之国際交流基金ユース
弁護士・河合弘之さんがこれまで取り組まれ、国内外から高い評価を受けてこられた様々な人道支援活動、社会正義への貢献、そして脱原発と自然エネルギー推進活動の成果を次世代へ継承し、国際的な若者支援を行うために設立。ピースボート V117 には 5 名乗船。グローバルヒバクシャの視点など、新たな課題を発見した。クルーズ後の広島、長崎の平和記念日を訪れ、ヒバクシャの声を広める方法を模索している。

■　水先案内人
高橋和夫さん（国際政治学者、放送大学名誉教授）
更科枝里さん（株式会社 Global Wellbeing 代表取締役、博士（スポーツウェルネス））
長野放さん（株式会社 Global Bridge 取締役社長、バイオメカニクス博士、ビクトリア大学 IHES 研究員）
河合宏之さん（弁護士、映画監督）
金藝率さん（Lilla Elefant 創設者・デザイナー、IKEA UX アクセシビリティデザイナー）
鐙麻樹さん（北欧ジャーナリスト、写真家）
ヘレン・ジアさん（ジャーナリスト、作家、ヴィンセント・チン研究所創設者）
サンホ・ツリーさん（米・政策研究所(Institute for Policy Studies) フェロー）
能條桃子さん（NO YOUTH NO JAPAN/FIFTYS PROJECT 代表）　ほか

■　多国籍な参加者
ピースボートクルーズ Voyage117 約1，500名の参加者のなかには、日本国籍の方以外にも、中国、韓国、台湾、シンガポール、マレーシアなど約300名の多国籍の参加者が乗船した。船内での多くの企画は英語の通訳を入れて行った。（映画上映は日本語、英語、中文、韓国語で理解できるようにした。）

≪企画一覧≫

1. 広島・長崎の原爆や世界各地の核実験が人間にもたらした被害の実相を伝える

証言会:「あの日」への想いを語る(4/26)
交流会:「田中熙巳さんと話そう」(5/5)
ワークショップ:「学びのひろば　プロジェクト編 Part1 テーマ「ひばくしゃ」」(5/6)
証言会:「田中稔子さんの被爆証言(英語／中文)」(5/13)
映像上映:「はだしのゲンが見たヒロシマ」(6/3)
証言会:「水先案内人への英語証言会」(6/15)
講座:「核実験がもたらしたものとは」(6/21)
映画上映:「サイレントフォールアウト　乳歯が語る大陸汚染」(6/26)
講座:「隠された真実を明かす「証言の力」」(6/29)
映画上映:「ヒロシマの誓い -サーロ―節子とともに-」(7/3)
講座:「被爆カバンが語るあの日」(7/6)
映像上映:「ヒロシマ、声　在日コリアンの物語」(7/15)

2. 世界の核問題への理解を深める

紹介企画:「はじめまして！おりづるプロジェクトです」(4/24)
交流会　:「おりづるカフェ」(4/27)
講座:「切り開いた核兵器廃絶への道」(4/28)
講座:「おりづるプロジェクトがノーベル平和賞？？」(5/7)
映像上映:「おわりのはじまり～ノーベル平和賞のその先に～」(5/12)
講座:「日本の平和憲法がラスパルマスに！？」(5/24)
ワークショップ:「みんなでクイズ」(5/24)
紹介企画:「もねとじいじの 105 日」(5/26)
紹介企画:「おりづるユースのミキとジョエルってだれ？」(5/26)
紹介企画:「七宝焼きの魅力紹介」(5/29)
展示会:「希望の筆、平和の写真展」(6/3～6/7)
展示会:「おりづる図書館」(6/7)
ワークショップ:「世界中にある核兵器を体験しよう」(6/11)
交流会:「稔子さん、忠義さんと話そう」(6/11)
展示会:「NO NUKES -ビキニを忘れない-」写真展(6/18～6/20)
紹介企画:「グローバルヒバクシャってどんな人？」(6/19、6/20)
トークショー:「上映後スペシャルトーク:秘められた真実と証言者メアリーの物語」(6/26)
講座:「今アメリカでは何が起こっているのか」(6/30)
ワークショップ:「世界中にある核兵器の数を描いてみよう」(7/6)
報告会:「9 条プレートを世界に」(7/17)

3. 世代と国境を越えた多くの人々とともに、核兵器をなくすための具体的な歩みや継承について考える。

講座:「ヒバクシャ母娘　世界をつなぐ旅」(7/4)
講座:「戦争はなぜ始まり終わるのか？」(7/4)
講座:「核兵器は無くせる」(7/6)
紹介企画:「「忘れないプロジェクト」ってなあに？」(7/9)
報告会:「被爆証言と私たちの継承のかたち」(7/23)

● 詳細

ホームページ(日)　http://peaceboat.org/projects/hibakusha
ホームページ(英)　http://peaceboat.org/english/?page=view&nr=83&type=28&menu=105
ブログ(日)　https://hibakushaglobal.net/

● メディア掲載情報（一例）

2024 年 4 月 2 日　朝日新聞（長崎版）

被爆者と孫の思い乗せ「継承の航海」へ

被爆者と孫 証言の航海へ

小川忠義さん・長門百音さん、ピースボート参加

平和活動継承に覚悟と自信を

2024 年 4 月 7 日　中国新聞

核廃絶願い 5 度目航海へ

7 年ぶり　18 か国に寄港「愚直に証言を」

核廃絶願い5度目航海へ

被爆者で七宝作家・東区の田中さん

七宝作家で被爆者の田中稔子さん(85)＝広島市東区＝が13日、非政府組織（NGO）ピースボート（東京）の大型客船で、7年ぶりに証言の航海に出る。「今回が最後だと思う」。来年の被爆80年を前に、世界各地で被爆の実態を伝える。（山下美波）

7年ぶり 18ヵ国に寄港「愚直に証言を」

2024 年 4 月 8 日　長崎新聞

未来見据え「証言の航海」へ

未来見据え「証言の航海」へ

被爆者の小川さん、孫の長門さん

継承の現在地 被爆80年へ

13日から3ヵ月間 ピースボート乗船

2024 年 4 月 13 日 ピースボートが横浜出港　ウクライナの若者も乗船（共同通信）

ピースボートが横浜出港　ウクライナの若者も乗船

2024年04月13日 12時25分 共同通信

広島や長崎の被爆者らを乗せて世界一周をするピースボートの船が横浜港を13日たつのに先立ち、主催者が記者会見した。被爆者3人が各地で自身の体験を証言する他、ウクライナ出身の若者7人が戦禍について伝えながら世界を回る。

長崎で1歳の時に被爆した小川忠義さん（80）は会見で「一人でも多く核の恐ろしさを伝えていきたい」と意気込んだ。

乗船した被爆者による証言会は2008年から始まり、これまで延べ170人以上の被爆者が自身の経験を話してきた。今回は、日本原水爆被害者団体協議会（被団協）の田中熙巳代表委員（91）も南アフリカのケープタウンまで乗船する。

共同通信のニュース・速報一覧

共同通信

国内外約300の拠点を軸に、災害現場から地域の隅々まで、常のニュースを的確に、いち早くお届けします。

https://www.kyodonews.jp/

一般社団法人 共同通信社 KYODO NEWS

2024 年 4 月 13 日 NHK
被爆者やウクライナ避難者 核兵器廃絶と平和訴える船出港 横浜
https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240413/k10014421061000.html

2024 年 4 月 14 日 毎日新聞
核廃絶や平和訴え　被爆者とウクライナの若者乗船　横浜・ピースボート出港

被爆者とウクライナの若者乗船

核廃絶や平和訴え

横浜・ピースボート出港

世界一周の船旅をする「ピースボート」が13日、横浜港を出港した。広島・長崎の被爆者3人とウクライナ出身の若者7人も乗船し、寄港地や船内で核廃絶や戦禍の悲惨さを訴える。

今回乗船した被爆者3人は、日本原水爆被害者団体協議会代表委員の田中熙巳さん（91）、広島市の田中稔子さん（85）、長崎市の小川忠義さん（80）。ウクライナの若者7人も寄港地で自国の現状や自身の思いを伝える場が設けられる。

田中さんは出港前のあいさつで、航海を通じて核廃絶を訴える決意を語った。ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルによるパレスチナ自治区への攻撃に触れ、「核保有国による（核兵器の）使用の威嚇がされている。今ほど核兵器禁止条約を核保有国の主導者に守らせることが求められる時はない」と訴えた。

乗船者は約150人で、アジア、アフリカ、欧州、中南米、北米を巡り、7月26日に横浜港に帰港する予定だ。【安藤いく子】

ピースボートの乗船前に写真撮影に応じる被爆者とウクライナの若者ら＝横浜市の横浜港で

2024 年 4 月 14 日　神奈川新聞
ピースボート　横浜から出港　被爆者ら、体験証言へ

2024年4月14日 神奈川新聞

ピースボート 横浜から出港

被爆者ら、体験証言へ

広島や長崎の被爆者らを乗せて世界一周をするピースボートの船が13日、横浜を出港した。被爆者3人が各地で自身の体験を証言する他、ウクライナ出身の若者7人が戦禍について伝えながら世界を回る。

出港に先立って開かれた記者会見では、長崎で1歳の時に被爆した小川忠義さん(80)が「一人でも多く核の恐ろしさを伝えていきたい」と意気込んだ。

乗船した被爆者による証言会は2008年から始まり、これまで延べ170人以上の被爆者が自身の経験を話してきた。今回は、日本原水爆被害者団体協議会（被団協）の田中熙巳代表委員(91)も南アフリカのケープタウンまで乗船する。

ウクライナ出身の若者の参加は在日ウクライナ大使館の協力で実施。ロシアの侵攻後に日本に避難したナターリヤ・マコホンさん(22)は取材に「自分の経験を伝えることで、どうすれば平和な世界になるか模索したい」と話した。

14日には神戸に寄港する。およそ3カ月かけて世界を一周する予定で、主催者によると乗船者は計約1500人に上る。

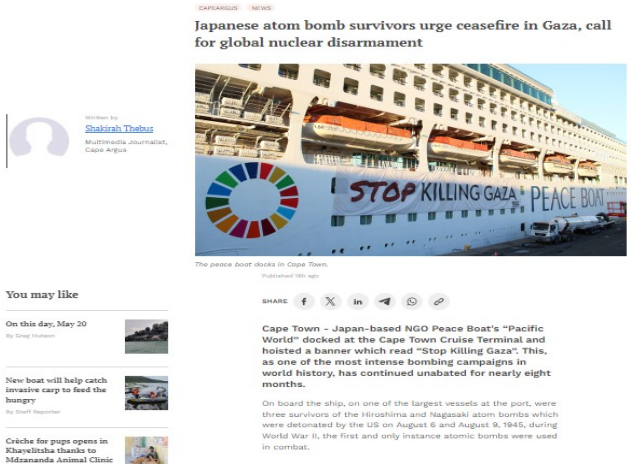
ピースボートへの乗船前、記念撮影するウクライナ出身の若者や広島、長崎の被爆者ら＝13日午前、横浜市

2024 年 5 月 1 日　公共放送 SBC（セイシェル）

8 p.m News 01-05-2024

2024 年 5 月 9 日　長崎放送
被爆 1 世・3 世が被爆証言の旅「モネとじいじの平和の航海」
https://www.youtube.com/watch?v=DMxZ2ia888M

2024 年 5 月 20 日　IOL（南アフリカ）



CAPEARGUS　NEWS

Japanese atom bomb survivors urge ceasefire in Gaza, call for global nuclear disarmament

Written by
Shakirah Thebus
Multimedia Journalist, Cape Argus

STOP KILLING GAZA　PEACE BOAT

The peace boat docks in Cape Town.

Published 18h ago

SHARE

Cape Town - Japan-based NGO Peace Boat's "Pacific World" docked at the Cape Town Cruise Terminal and hoisted a banner which read "Stop Killing Gaza". This, as one of the most intense bombing campaigns in world history, has continued unabated for nearly eight months.

On board the ship, on one of the largest vessels at the port, were three survivors of the Hiroshima and Nagasaki atom bombs which were detonated by the US on August 6 and August 9, 1945, during World War II, the first and only instance atomic bombs were used in combat.

You may like

On this day, May 20
By Greg Hubert

New boat will help catch invasive carp to feed the hungry
By Staff Reporter

Crèche for pups opens in Khayelitsha thanks to Mdzananda Animal Clinic

2024 年 5 月 29 日
CANARIAS7（ラスパルマス）

12 | GRAN CANARIA

Miércoles 29.05.24
CANARIAS7

Tanaka Toshiko y Ogawa Tadayoshi, dos de los supervivientes del nefasto ataque nuclear lanzado por Estados Unidos en agosto de 1945 a las ciudades japonesas de Hiroshima y Nagasaki, visitaron recientemente la ciudad de Telde. El concejal de Turismo y Cultura, Juan Martel, les dio la bienvenida y les guió en un recorrido por los lugares más emblemáticos del municipio.

Una de las paradas más conmovedoras fue en la Plaza de Hiroshima y Nagasaki, en el barrio teldense de San Juan, donde los visitantes asiáticos pudieron honrar a las más de 200.000 víctimas que perdieron la vida en aquel trágico suceso, que siguió afectando años más tarde como consecuencia de la gran carga de radiación emitida.

Esta no era la primera vez que Toshiko y Tadayoshi se encontraban en Gran Canaria. Ya lo hicieron en la década de los 80, visitando la Isla a bordo del Barco de la Paz, que hizo escala en el Puerto de Las Palmas tras una travesía de diez días desde Namibia, una iniciativa global que tenía como finalidad promover por todo el mundo un mensaje pacifista y opuesto a las armas nucleares.

En un acto preparado en las Casas Consistoriales, Juan Martel expresó su gratitud por la valentía mostrada y por el camino que siguen en busca de la paz mundial. En esa misma ubicación, fueron invitados al encuentro más de una veintena de adolescentes de los Boy Scouts de Telde. Allí pudieron conocer a los protagonistas de una de las barbaries más grotescas de la historia contemporánea, quienes compartieron con ellos sus experiencias y un mensaje a favor de la paz, recordando los horrores de la guerra y abogando por un mundo libre de armas nucleares.

Toshiko, quien sufrió quemaduras graves al estar expuesta a la bomba de Hiroshima, ha dedicado toda su vida a transmitir su testimonio a nivel internacional, incluyendo múltiples viajes a Estados Unidos. Por su parte, Ogawa Tadayoshi, sobreviviente del bombardeo de Nagasaki, ha recopilado y documentado testimonios fotográficos de los efectos devastadores de la bomba para educar en valores a futuras generaciones.

Martel les entregó presentes de cerámica alusivos de la ciudad y los acompañó en una visita al patrimonio histórico de Telde, incluyendo el Museo Etnográfico y la Basílica de San Juan. Por su parte, los Boy Scouts les hicieron entrega de una pañoleta a cada uno, con los colores significativos de la organización juvenil. Entre los acompañantes de los supervivientes se encontraba Joel Naoki Christoph, un joven investigador en temas nucleares y derecho internacional. Multilingüe y con experiencia en diversas culturas, viaja con los supervivientes promoviendo el entendimiento y el debate sobre las armas nucleares.

Huang Rongyuan y Tanaka Terumi también fueron parte de la expedición. Rongyuan nació en China, pero estudió en Japón y ahora vive en Estados Unidos. Por su parte, Terumise graduó en el departamento de Física de la Universidad de Tokio y tiene un doctorado en Ingeniería.

Varios acompañantes se unieron a la visita de Tanaka y Ogawa al municipio de Telde. ez

Telde y su vinculación con Hiroshima y Nagasaki

Emocionante encuentro. Los japoneses Tanaka Toshiko y Ogawa Tadayoshi, dos de los supervivientes del ataque nuclear, acudieron a la plaza teldense de San Juan que honra a las más de 200.000 víctimas. Juan Martel, concejal de Cultura, los acompañó en la visita

Tanaka y Ogawa posan con el concejal Juan Martel y responsables de la Policía Local. ez

CANARIAS7

2024 年 5 月 31 日_Paris Normandie（ルアーブル）

2024 年 6 月 15 日 Yahoo！ニュース
冷戦の記憶と平和
被爆者とウクライナ若者がレイキャビクで見たもの

2024 年 6 月 17 日　NHK World

Hibakusha Voyage for Peace

https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/news/videos/20240617155405219/

2024 年 6 月 28 日　荻上チキ・Session（TBS ラジオ）
https://www.youtube.com/live/8ZGiMJ7zw2o?si=0IOuwJ5CUsHOOrGp&t=4419

2024 年 7 月 3 日　週刊ニューヨーク生活

2024 年 7 月 5 日　NHK 広島
広島の被爆者　田中稔子さん　世界一周で平和訴える
https://www.nhk.or.jp/hiroshima/lreport/article/008/27/

2024 年 7 月 11 日　毎日新聞
船上で語る　核の恐ろしさ

2024 年 7 月 22 日　徳島新聞
世界に届け　被爆者の声